2023 年 7 月

夏季間における大会等の運営について

（一社）宮城県サッカー協会

昨今の夏季における高温傾向は今年においても続いており、本協会では、選手、スタッフ、審判員及び観客の生命と健康を守るため、今季も JFA 熱中症対策に基づき、大会運営等をお願いするものです。

1. 基本方針

7，8 月期間の協会主催の大会等（各種大会、フェスティバルなどの事業）は、原則として設定しない。従来この時期に設定している大会等については、時期を変更して開催するように努力する。また、共催の大会についても、共催団体とよく協議し。本方針での開催を模索する

万一、この時期に大会等を開催しなければならない場合は、以下の暑熱対策を講じ、選手等の健康・安全を最優先した運営を徹底することとする。

2. 事前の準備

（１）大会スケジュールを余裕のあるものに設定する。

・大会期間を長く設定する。
・ピッチ数を増やす。
・午前の早い時間や夕方の時間帯に試合を行う。

（２）暑さ指数（以下「WBGT」という。）により、下記の対応ができるように準備する。

・ WBGT＝31℃以上となる場合は、試合を行わない。
・ WBGT＝28℃以上で試合を行う際は『JFA 熱中症対策』①～⑩の対策を講ずる。
・ WBGT＝25℃以上で試合を行う際は『JFA 熱中症対策』①～⑦の対策を講ずる。

『JFA 熱中症対策』

①ベンチを含む十分なスペースにテント等を設置し、日射を遮る。
②ベンチ内でスポーツドリンクが飲める環境を整える。
③各会場に WBGT 計を備える。
④審判員や運営スタッフ用、緊急対応用に、水・スポーツドリンク・経口補水液を準備する。
⑤観戦者のために、飲料を購入できる環境（売店や自販機）を整える。
⑥熱中症対策が可能な救急病院を準備する。
⑦クーリングブレイクまたは引水タイムを準備する。
⑧屋根のない人工芝ピッチは原則として使用しない。
⑨会場に医師、看護師、BLS（一時救命処置）資格保持者のいずれかを常駐させる。
⑩クーラーがあるロッカールーム、医務室が整備された施設で試合を行う。

3. 当日の対応

（１）各会場に WBGT 計を準備し、計測した数値により対策を講じる。

・ WBGT＝31℃以上の場合は、試合を中止または延期する。
やむを得ず行う場合は『JFA 熱中症対策』①～⑩を講じた上で、クーリングブレイクを

行う。

・ WBGT＝28℃以上の場合は、『JFA 熱中症対策』①～⑦を講じた上で、以下の対応を行う。

1・2種　…　クーリングブレイクまたは飲水タイムを行う。

3・4種　…　クーリングブレイクを行う。

・ WBGT＝25℃以上の場合は、3・4種は『JFA 熱中症対策』①～⑦を講じ、以下の対応を行う。

3種　…　飲水タイムを行う。

4種　…　クーリングブレイクまたは飲水タイムを行う。

（2）フットサル等の試合や大会を行う場合も、上記と同様の対応を行う。ただし、屋内の場合は高湿度傾向にあるので、風通しを良くするなどの対応策を講じる必要がある。

（3）「自由な交代」が可能な試合についても、クーリングブレイクや飲水タイムを設定する。

4．その他の対応

（1）競技形式の変更

・競技会規定に定められた試合時間を短縮する。

・延長戦を行わず、PK 方式等により次回戦進出チームを決定する。

・「自由な交代」のルールを採用する。

（2）水分補給

・現場の状況に合わせて、クーリングブレイクや飲水タイムの実施回数を増やす。

（3）観戦者

・観戦者向けの休憩施設や日除けの準備をする。

・熱中症への注意喚起と症状が起きた場合の対応については、アナウンスを随時行う。

（4）キッズ対象事業

・延期や中心判断基準を厳しくし、期日にも余裕をもって、参加者に開催の有無を周知する。

運動に関する指針

気温（参考）	暑さ指数（WBGT）	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31 以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。
31～35℃	28～31	厳重警戒 （激しい運動は中止）	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。 10～20 分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。 暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。
28～31℃	25～28	警戒 （積極的に休憩）	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30 分おきくらいに休憩をとる。
24～28℃	21～25	注意 （積極的に水分補給）	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	21 未満	ほぼ安全 （適宜水分補給）	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

※暑さに弱い人：体力の低い人、肥満の人や暑さに慣れていない人など

（公財）日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」（2019）より